

昔見た絵ハガキ

雪が深々と降る夜の新潟駅付近を歩いたことがある。街灯に照らされて止めどもなく降り続ける雪。ギョッ、ギョッと雪を踏みしめる足音。子供のころに歌った「雪の降る街を」がこの雰囲気の中で自然に口ずさまれた。

「♪～雪の降る街を 雪の降る街を 思い出だけが 通り過ぎてゆく 雪の降る街を 遠い国から落ちてくる この思い出を この思い出を いつの日にかつつまん 温かき幸せのほほえみ ～♪」

3月半ば過ぎの JR 新潟駅は冬の季節から目覚めようとしていた。美しく飾られた歩道の花壇には春の温かさが伝わってくる。この駅舎は新潟春季国体開催前の 1963（昭和 50）年に、地上 4 階建て・一部 6 階建てに増築されて今日に至っている。

友人から 1 枚の絵はがきが送られてきた。立派な新潟駅の写真であった。いつの日か行ってみたいという夢が広がった。そしてその夢は数年の歳月を経て実現した。以来親しい友人もいることもあり何度か訪ねている。私にとって新潟は思い出多き大好きな街の一つになっている。

時は移り 1982(平成 57)年には待望の上越新幹線が、東京駅より新潟駅まで開業している。そして 2005 年に始まった広域合併により、新潟市は 81 万人を突破。2007(平成 19)年に、本州日本海側で初めての政令指定都市（8 行政区）になっている。更に関越自動車道、北陸自動車道、磐越自動車道が全線開通し、交通網は急速に発展し便利になっていった。

しかし地元に住む友人は少し悲しそうに、東京本社から新潟支社、支店、営業所等が次々に閉鎖になっていった。それは日帰りでも用が足せるようになったからだという。 撮影 2013 年春



